

# 夏のおぢばに 子どもたちの笑顔がかえってきた

(写真は少年会夏の家族帰参の様子【記事 P3】)



発行所  
天理教夕張大教会  
〒068-0029 北海道  
岩見沢市9条西6丁目21  
☎ 0126-22-1248  
FAX 0126-23-7275  
yubaridai146@gmail.com  
ホームページ  
bariten.main.jp



LINE 友達登録  
お願いします

## 会長より皆様へ

夏のおぢばは久しぶりに子供たちの姿で賑わいました。この夏、大教会を挙げ「家族帰参」に力を入れましたが、お力添え下さいました皆様方にお礼申し上げます。有難うございました。

さて、今回のコロナ第7波はいつ頃収まるのでしょうか。不安な方も多いと存じますが、感染予防に気を付けながらも、親神様が喜んで下さる心と言葉づかいで人と関わりになるのだと考え、謙虚に私達らしい信仰者の言葉遣いで、思いやりの生活というものを目指したいと思っております。医療、福祉を支えて下さる方々が、今日も私達の為にあらゆる医療行為に身体を酷使しておられます事を想像し、私も生活の中で我慢する事、辛抱する事は医療に対する感謝であると自覚し、行動したいと存じます。

話は変わりますが、今年の甲子園で天理高校の初戦の応援席には奈良県大会から使われた「ガッツ!!天理」の横断幕と、そのすぐ隣に紫で描かれた「つなぐ心ひとつ」に 天理高校野球部 生駒高校野球部一同

## お知らせ

月次祭 9月15日(月) 9時30分開扉献饌  
全教一斉にいがけデー 9月28〜30日  
第30回女子青年大会 11月27日

との新しい横断幕があった事を知りました。県大会決勝の日、突然のコロナ感染に見舞われ、外野手以外の全てのレギュラーが出場出来なかった生駒高校と対戦した天理高校は、互いに誇りを持って戦い天理が勝ちましたが、天理の選手は試合終盤自分達だけで相談し、優勝した瞬間、喜ばずにすぐに整列したのでした。

試合が終わり、健闘した生駒の選手には響き渡るほどの拍手が送られ、それは天理側の応援席からも。互いの監督がそれらの光景に目を潤ませ、天理の中村監督は「落ち着いたら決勝に出られなかった3年生の練習試合をしましょう。」と生駒側に提案したと聞きました。例の横断幕は、生駒の選手一同から、自分達を最後に気遣ってくれた天理へのエールとして8月6日の夜に野球部の寮へ届けられ、8月8日の初戦、天理高校は生駒の思いも背負って、相手の強豪校と熱戦を繰り広げました。

互いの3年間を讃えあうような、心優しい両校の選手たちに感動致しました。

大教会長 藤田大和

# 汗ばむ陽気に心勇ませ 世界たすけに向かうつとめを

## 七月月次祭の様様

7月に入ると、道内は夏らしく温度が上って、往來も薄着で通る人が増えた。しかし昨年の記録的な猛暑程は暑くはなっておらず、心地のよい夏の空気に人も植物も喜んでるようであった。

迎えた月次祭の日、15日の天気は晴れ、さりとて暑すぎぬ程度の気温で、多くの人が大教会へと集まった。前庭の国道側には、8月に控えたこども会の為、志加ノ谷の岩佐祐太さんが建てたボルダリングの壁が参拝者をお迎え。立派な出で立ちに感嘆の声が上がっていた。

9時半より開扉献饌。祭儀のち祭文奏上。その後、座りつとめ・十二下りのてをどりが勤められた。やはりおつとめ衣を着けてのおつとめは汗を掻きながらではあったが、奉仕員は真剣に勤めていた。

お運びから奉告祭にかけて忙しい日々を過ごし、当時は私も気が立っていたようです。妻にも辛く当たっていたように思います。そんな中、左手にしびれを感じるようになり、病院に行くと『頸椎が神経を圧迫している』と診断されました。神様の思いを身上を通して悟るに、妻に高圧的な態度を取っていたから圧がかかってしまったのかな、と思に至りました。

講話には6月に就任奉告祭を終えたばかりの、梶川文吾・新生生分教会長が壇上に上がり、「3月には3代会長就任のお運び、そして6月4日に就任奉告祭を無事に終える事が出来ました。現在は御用をつとめながら仕事も続けてい

ます。それにはやはり、妻の支えがあつての事だ、と近頃特に感じます。互いの苦手な所を互いにフォローし合って、仕事、教会、子育てと二人三脚で取り組んでいます。

就職、中2人はおぢばの学校、下2人はまだ中学生と小学生でした。さらには高齢の祖母が教会にいました。当時愛知にいた私は事情を考え、教会に戻る事にしました。母のいなくなった教会は女の徳分たるぬくみ、みが無くなり、冷め切つたような雰囲気でした。兄弟姉妹にとつて教会が苦痛の場と変わっていました。当時の事を思う

と、現在兄弟姉妹それぞれが就職し、家庭を持って生活している事が、非常に奇跡に近い事だと感じています。神様に守って頂いていたのではないかと思えます。そんな中、私は縁あつて妻と結婚する事になりました。女の人のいない教会という事もあり、初めは向こうの両親に凄く心配されました。案の定、結婚当初に妻は見知らぬ土地での慣れない教会の御用、頼る人もない環境に大分苦労したようです。しかし、上級会長夫妻の温かいお仕込みや、大教会での住み込み中に皆さんから頂いたお心寄せで、少しずつ通り方に余裕が出てきたように思います。



講話に立つ梶川文吾会長

またお金に自由が利かない中、夫婦で工夫して過ごした事も、今となつてはいい思い出です。結婚して12年になりますが、ずっと苦労を掛けてきたな、と思ひます。会長になつて改めて、感謝の心を常々持っていたい、と思うようになりました。今心掛けた事は、しっかりと時間を取つて会話をすること、そして労いの言葉をかけるという事です。ある方から聞いたのが『奥さんも神様からのかりものなんだよ』という事で、自分の身体だけでなく、妻や子、自分に関わりある人達は全て神様が用意して下さつたもの。その中で妻を大切に、共に御用に向かわせて頂く。そのように今は考えています。

知りました。両親の事情、教会生活や会長就任までを通して、夫婦というものの大切さを学ばせて頂きました。夫婦が笑顔でなければ、子ども達もは信仰を楽しいものだと思わない事。我慢の日々だけだと夫婦は続かない事。同じベクトルを持ち、共通の目標を持つ事。そして、夫婦が互いに支え合ふ事。夫婦には、学ばべき教理が沢山詰まっているのではないかと思ひます。これからも、夫婦笑顔で暮らせるよう、私自身が楽しく信仰出来るよう、そしてその姿を通して教会に繋がる人達に陽気ぐらしが伝わっていくよう、努力を続けたいと思ひます。」と語つた。

現在、取り組んでいるのが、教会が地域に溶け込む、という事になります。教会が地域の人の足を運ぶ場になれば、その土地に教会がある意義となり、また教会活動も盛り上がっていくのでは、と考えています。一日一人でも、どなたか地域の方が足を踏み入れてくれる教会、というのを目指しています。ブランコや砂場を設置すると、子ども達が集まってくるようになります。そこから色々な方に声を掛けてもらうようになりましたが、その裏にはやはり妻が地域の方々に心を配っていた日々があつたと

続いて辞令交付があり、青年会で新たに2名が副委員長、6名が委員に任命され、代表して高橋悟志副委員長が大教会長より辞令を受け取つた。

また、7月2日に出直された富山敦雄役員の霊様に黙禱を捧げた。その後、大教会長は挨拶で「安倍元首相の事件で、日本中に衝撃が走つています。より宗教というものに対して見る目が厳しくなるかとも思ひます。しかし、私達は定期的に、神様から試される必要があると思ひます。神様の定規をわけていかなければならない。私

また、7月2日に出直された富山敦雄役員の霊様に黙禱を捧げた。その後、大教会長は挨拶で「安倍元首相の事件で、日本中に衝撃が走つています。より宗教というものに対して見る目が厳しくなるかとも思ひます。しかし、私達は定期的に、神様から試される必要があると思ひます。神様の定規をわけていかなければならない。私

また、7月2日に出直された富山敦雄役員の霊様に黙禱を捧げた。その後、大教会長は挨拶で「安倍元首相の事件で、日本中に衝撃が走つています。より宗教というものに対して見る目が厳しくなるかとも思ひます。しかし、私達は定期的に、神様から試される必要があると思ひます。神様の定規をわけていかなければならない。私

また、7月2日に出直された富山敦雄役員の霊様に黙禱を捧げた。その後、大教会長は挨拶で「安倍元首相の事件で、日本中に衝撃が走つています。より宗教というものに対して見る目が厳しくなるかとも思ひます。しかし、私達は定期的に、神様から試される必要があると思ひます。神様の定規をわけていかなければならない。私

達は教祖の教えを元に、教祖のひながたに従って通って参りました。世間に、また夕張の子ども達に何恥じる事のない思いで務めてきたつもりです。私は堂々と布教師であると言いつけるし、おたすけも、にをいげもやめない。この教えに間違いはないのだから、真摯に通る中に、段々と周りの人達も分かってくる時が来ると思います。

出直された敦雄先生に言われた事で、印象に残っている事があります。『栗山町の友人が、天理教は世界たすけをするのだから、富山君は栗山町を全部助けるつもりでやんなけりや、と言われた。だから命ある限りはこの栗山町を相手につとめるんだ』と聞かせて頂きました。勇み心を分けて頂いたような、そんな敦雄先生との思い出でした。

来年からは教祖百四十年祭の三年千日の年が始まります。立て合うように、今年はこの神殿が落成して百年、そして来年は大教会隆級五十年という節目であります。この旬に、共々に勇んで通って参りたいと思います」と話された。

祭典後には岩佐善昭少年会委員より、夏のこどもひのきしんの概要の説明と、景品となる夕張限定Tシャツが紹介され、大人用Tシャツはロビーにて販売されて、即日完売となった。



少年会夕張団では、この夏休み期間中、夕張団夏の家族帰参を実施しております。これはコロナ禍以後、こどもおちばがえりが中止となっておりますが、空港と詰所間の送迎など、できうる限りの感染対策を講じ、少しでも不安を軽減することで、夏休みにおちばへ帰られる家族をサポートしたいとの思いから始まりました。8月1日現在で8家族、少年会員17名、育成会員17名の計34名が帰参。真夏の親里らしい猛暑の中、感染症また熱中症対策をしながら、ご本部参拝やひのきしん、そして少年会本部が運営する各所イベントを周り、おちばがえりを思う存分満喫してくれました。

また詰所行事では、花火やバーベキュー、そして今回新たに設置された巨大プールに、子どもたちはおおはしゃぎ、かけがえのない夏のひとときを、家族そろっておちばで過ごせたことはなよりの宝物となったことでしょう。

以下には帰参してくれた少年会員の感想を掲載いたします。

ご本部の神殿が大きくて、びっくりした。

回廊ひのきしんは、広いところをばーっと雑巾をかけて進めて面白かった。おつとめは、立って踊るのが難しかった。花火めっちゃ楽しかった。また行きたいです。ありがとうございました。【直轄隊 深堀美祝 (小2)】

廊下が坂になってるところを雑巾掛けをして下りるのが楽しかった。プールで、みんなと遊べて楽しかった。

朝ごはんの、マーガリンといちごジャムのパンが美味しかった。ありがとうございました。【直轄隊 深堀千暁 (4歳)】

ぼくはおちばのピッキーとリボンのうちゅうたんけんでかずとはるといっしょにきよだいめいろをしたことがたのしかったです。【北弘隊 千葉斗理 (小1)】

ひのきしんとか、花火とか、かえるつかまえたりとか、虫つかまえたりとか、ザリガニつかまえたりとか、スーパー行ったりとか、楽しかった。おちばにザリガニがいて、びっくりしたし、うれしかった。三つの約束を覚えた。

【幌都隊 藤田一喜 (小2)】

詰所のプールが楽しかった。朝づとめに行きたかったけど、ちょっと間に合わなくて悔しかった。

日本一の観覧車に乗ってすごいと思った。またおちばに行きたい。【幌都隊 藤田一葉 (小1)】



全国各地から寄り集った、直轄隊のお友だちと詰所のみなさま



幌都隊のお友だち。祖父の詰所主任先生も大喜び



北弘隊はおちば出発時に幌都隊と記念撮影

集えることの喜び感じ

陽気ぐらしの台となるべく再び歩み出す

婦人会委員長講話、3年ぶりに開催

7月23日、3年ぶりとなる、委員長講話を開催させて頂きました。コロナ感染対策の上、内容を短縮するなどし、25名の参加となりました。

母親講座については担当者より、我が子のみならず身近な方々から日々子育てさせて頂くことを意識し、さらに共々に自らがよるこびを見つ

藤田美重子支部長は、あいさつの中で、まずコロナ禍にも関わらず日々活動をすすめようとする各委員長をねぎらい、そして婦人の成人を促す上で原点を学び、ひながたに近づいた行動を実践する

藤田文雄前大教会長は、以前よりyoutubeで活躍されていました。このたび祝梅分教会長高橋太志氏が、新たに仲間入りを果たしました。お道の機関紙「陽気」を発行している養徳社が運営する「陽気チャンネル」では、様々な立場の方々が自らの体験をもとに、お道の話を発信しており、その中高橋氏は、家族生活を題材とし、信仰の喜びについて和やかにお話をしております。ひきよせ表紙にあるQRコードからご覧いただけますので、ぜひともハンカチをご用意してご視聴下さい。

新たなYouTuberデビュー 祝梅分教会長 高橋太志氏

お道の機関紙「陽気」を発行している養徳社が運営する「陽気チャンネル」では、様々な立場の方々が自らの体験をもとに、お道の話を発信しており、その中高橋氏は、家族生活を題材とし、信仰の喜びについて和やかにお話をしております。

地域活動でひのきしん 交通指導員勤続10年

7月13日、北海道警察交通部の旭川地区安全大会があり、藤崎実(旭都分教会長、66歳)さんが交通指導員勤続10年の表彰を受けた。

氏は10年前、町内会長として地域の会合に出た際に、「地域の交通安全を守ることは、子どもたちを地域で育ててくれた恩返しだと思え」と交通部の部長さんが話しているのを聞いて、自分が出来る恩返しだと務め始めたそう。吹雪の日には休みですが、雪の上で指導員として立っているのは、きつくなりましたと言っていた。しかし、同表彰式には勤続30年という高齢男性もいて、励みになったとも。

交通安全のために今後もひのきしんの心でおとめ下さい。



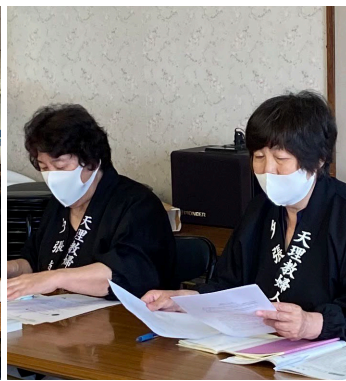
表彰状を手に 教会で記念撮影

大教会日誌抄 7月

- 1日 たすけ推進会議
- 2日 女子青年例会
- 3日 会長他系統葬儀(4日)
- 5日 会長、前会長、栗山分葬儀(6日)
- 7日 会長、埼玉へおたすけ(8日)

庶務部 7月

- ▽初席 各務 仁(北八洲) 7・16
- ▽教人資格講習会・後期 高橋 和志(祝梅) 7・7~11
- ▽教会長夫妻特別講習会 第5回 藤田 豊 (幌都) 7・18
- 第6回 千葉 真理 (北弘) 7・27
- 千葉 有理絵 (北弘)
- 富山 文恵 (栗山)
- 藤田 真紀 (幌都)
- ▽詰所教養掛 8月 岩佐 善昭(志加ノ谷)
- 9月 渡部 修(清真布)
- ▽をびや 1件



久し振りに委員長が元気に集い、講習会を無事終えさせていただきました。これは、大きな喜びとなりました。(常任委員 梶川洋子)



おはなし 祝梅分教会長 高橋太志